

(1) 色覚異常とは

人間の網膜には、視細胞という細胞があり、視細胞は、錐体細胞と杆体細胞という2つの細胞に分かれます。

この2種類のうち、さまざまな色を感じることができる細胞を錐体細胞といいます。

錐体細胞は赤錐体・緑錐体・青錐体およびその3種類の組み合わせで、さまざまな色を感じることができます。この錐体細胞のいずれか、あるいは全てが欠損したり不完全で起こる色の感じ方の異常を色覚異常といいます。

(杆体細胞は明暗を感じる細胞のため、色や物の形を見分けるのにはあまり関係ありません。)

色覚異常の多くは先天性のものです。先天性のものは遺伝子に何らかの差異があって起こるものであり、一般的に、進行・治療するということはありません。

また、後天性の色覚異常を伴う疾患としては、網膜疾患や視神経疾患、中枢疾患などが知られておりますが、白内障や緑内障、加齢性黄斑変性症などでも起こることがあります。

(2) 症状

以前は色盲と呼ばれたことから、「白黒に見える」ような誤解はありますが、それはまれな全色盲の場合です。先天色覚異常の大多数を占める赤緑色覚異常であっても、有彩色を感じとっています。

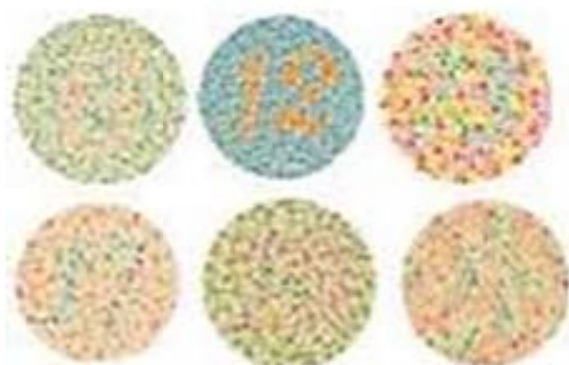
軽度の先天性色覚異常による色を見分ける能力は、日常生活で不便を感じる程度のもではありません。ただ、狭い面積に配色されたもの(細い線の文字など)はより判別しにくくなることもあり、不便の程度は、色彩以外の条件によっても影響を受けることが多いのです。

(3) 当院の取り組み

当院では医師の診断と指示のもと、①石原式色覚検査 ②パネルD-15を行っております。

何かご心配な事がございましたら、ご遠慮なくご相談・お問い合わせくださいませ。

①



②

